

令和6年度 とうきょう すくわくプログラム活動報告書（0歳児）

施設名	小平市立大沼保育園
施設所在地	小平市立大沼町2-2-8

1. 活動のテーマ

<テーマ>

色

<テーマの設定理由>

- ・カラフルなおもちゃに関心がある姿が見られ、手に取ったり目で追ったりしているので、更に色への興味を広げていくことができるようにするため。
- ・色には沢山の種類があることや素材によって感触の違いを感じられるようにするため。

2. 活動スケジュール

11月 テーマの設定

11月～2月 実践・記録

- ・絵の具にビニール袋越しに触れる。
- ・絵の具に直接触れてみる。
- ・タンポや筆など道具を用いて絵の具で画用紙に色をつけてみる。

3月 振り返り

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・絵の具、画用紙、ビニール袋を用意する。
- ・遊びの中で保育士等が絵の具に触れてみせる。
- ・触れやすいように床で行い、手だけではなく、足やお腹など全身で絵の具の感触を感じられるようにする。
- ・視覚的に色がはっきり分かりやすい赤・青・黄色を白い紙に出す。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・白色の模造紙に赤青黄の絵の具を出し、ビニールをかぶせ、ビニール袋に入った絵の具に触れる。
- ・保育士等がやって見せて子どもが触れるきっかけを作る。
- ・友達が触れる様子を見る。
- ・口に入れないように気をつけながら絵の具を画用紙に出し、指で保育士等が触って見せる。
- ・「どんないろがすき？」の歌を日常の遊びに取り入れる。
- ・タンポや筆を用意し、保育士等がやって見せる。
- ・安全に配慮しながら、子どもと一緒にタンポや筆を持って取り組む。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・色に関心をもつことができるように保育士等がやってみせる。
- 絵の具をビニール袋のなかに出して保育士等が触れていると、近くに来て絵の具が動く様子や混ざる様子をながめたり、手を伸ばして触れようとしていたりしている。
- ・絵の具の感触を嫌がる子どもがいたので、タンポや筆を用意し直接触れずに色をつけられるように促すと集中して取り組み、色がつく様子をよく見ていた。
- ・色の名前を知るために「どんないろがすき」の歌を流し、保育士等が歌っていると、それに合わせて「あか」「あお」と話す子どもがいた。



5. 振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

- ・初めての活動に慎重になっている姿が見られたが、保育士等や他児が遊んでいると、少しやろうとする姿が見られはじめた。同じ活動や、身近な物のイラストに色を付けてみるなどの少し発展させた活動を継続していくことによりさらに色への関心を広げていく。
- ・発達の違いが大きい年齢なので、個々にあった触れ方を保障した。ビニール袋越しという設定は無理がなくよかった。よく見て目で追っていたので、色の名前を保育士等が言いながら、色を意識できるような関わりを今後も続けていきたい。次年度以降、色の違いに気が付くことができるような色分けを取り入れた遊びや野菜と同じ色の絵の具を用いた活動から、子どもたちの興味・関心を広げていく。

令和6年度 とうきょう すくわくプログラム活動報告書（2歳児）

施設名	小平市立大沼保育園
施設所在地	小平市立大沼町2-2-8

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光と影

<テーマの設定理由>

幼児組のトンボのメガネ作りから、そこにカラーセロファンが貼ってあるのを発見し、自分たちも使ってみたいと興味を持ったため設定した。光が透けたり、色が映し出される様子や影が映し出される様子を見たり、光の綺麗さや不思議さを感じ、光と影の関係に気づいたり、更なる興味に繋げていくため。

2. 活動スケジュール

11月 テーマの設定

12月～2月 実践・記録

- ・セロファンを光に透かして遊ぶ。

- ・部屋を暗くした中でライトテーブルを使っていろいろな素材を光に透かして遊ぶ。

3月 振り返り

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・カラーセロファンを用意し、自由に触ったり、光にかざして見ることで、光の見え方や色の変化を感じられるようにする。

- ・ライトテーブルや懐中電灯を使って、光が透ける素材（セロファン、オイルタイマー、カラーストーン、ブロックなど）から光が透ける不思議や綺麗さ、面白さを感じられるようにする。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・カラーセロファンを用意して、室内遊びのときに自由に遊べるようにする。興味を持って、見た色を言ったり、色を重ねたりする。カラーセロファンに顔を近づけて遊ぶ。

- ・部屋を暗くしてライトテーブルの上に光が透ける素材や玩具を置いておく。ライトテーブルから出る光が玩具を通して映し出される様子を楽しんだり、懐中電灯でカラーセロファンや光が透ける素材の玩具に光を当てて、影を写したり、どうしたら影が映るのか試行錯誤する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・ カラーセロファンや玩具が光に透ける様子を見たときには「きれい」と目を輝かせている。「きれいだね」と共感すると笑顔を見せていた。友達と感動を共有できるように「〇〇ちゃんのもきれいだよ」などと伝え、「ほんとうだ」「こんどかして」などと会話ややりとりが広がる様子があった。
- ・ カラーセロファンを目に当てて部屋を見回すことで、「あかになった！」など周りの風景の色が変わって見えることに気付いた。
- ・ 友達とお互いの顔を見合わせて笑い合い、楽しい雰囲気になった。
- ・ カラーセロファンの色を重ねてどんな色が出来るか試行錯誤していた。

色を重ねて新しい色ができると、「むらさきができたよ」など喜んで、「本当だ！できたね」などできたことを一緒に喜んでいくと、得意げな顔を見せていた。

- ・ ライトテーブルや懐中電灯で遊んだ時にはいろいろな素材の影を写そうと試行錯誤していた。

しばらく見守っていると、できた子は「うつったよ！」と嬉しそうにしていた。

できない場合には手伝ったり、アドバイスをすると、自分でやってみようとする姿があった。

- ・ 玩具を「かして」と友達とやりとりしたり、玩具の取り合いになることもある。お互いの気持ちを伝える仲立ちをしたり、自分たちで解決できそうなどときには見守っていくと、自分たちで話し合って順番で使うことができた。
- ・ 懐中電灯の光で飛行機や雲の玩具を映し出し、「空をとんでいるんだよ」などイメージして遊んでいる。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・ 光が映し出す幻想的な世界を見て、感動する様子が見られ、光の遊びに興味を持ったり、次の活動への興味も広がっていることを感じた。引き続き遊びを通して、試行錯誤する中で新しい発見ができるように環境設定していきたい。
- ・ こどもたちの興味のあるテーマの設定や環境設定、玩具の用意などをすることで集中して遊んだり、試行錯誤したりして興味が広がっていくことを感じた。
- ・ 試行錯誤することができるよう素材を準備し、見守っていくことで考える力を育むことに繋がっているのではないかと感じる。
- ・ 自分の発見したことを友達や保育士等に伝え合うことで、コミュニケーションのきっかけになっていた。個々が発見したことをクラス全体で共有していくことで新しい興味につなげていく。
- ・ 光の世界でイメージを膨らませることで想像力が育まれていたので、次は影絵などを見ることで、更に光と影のイメージが膨らむ機会を設け、更なる探求に繋げていく。

令和6年度 とうきょう すくわくプログラム活動報告書（3歳児）

施設名	小平市立大沼保育園
施設所在地	小平市大沼町2-2-8

1. 活動のテーマ

<テーマ>

色

<テーマの設定理由>

- ・乳児組からクレヨンを使った描画や絵の具遊びに親しんでおり、色水遊びをするなかで混色による色の変化に気づく姿がみられたため、混色の仕組みへの理解・興味をより深めるため。
- ・他の遊びを楽しむ中で、自分で考えたことを試したり、友達から刺激を受けて真似したりする姿が増えているので、色遊びを通して試行錯誤するため。

2. 活動スケジュール

11月 テーマの設定

11～2月 実践・記録

- ・3原色を使った混色をパレットのなかで試す。
- ・自分で作ったオリジナルの色で描画をする。
- ・カラーセロファンを陽にかざしたり、複数色を重ねることで色の変化に気づいたりする。
- ・セロファン以外でも重ねると色が変わるものを探す。

3月 振り返り

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・室内でこども達がいつでも自由に絵の具、筆、パレットを出せるようにした。
- ・3原色を用いて混色をたくさん経験したあとに白色を出してみる。
- ・色水遊びではジャグを用意して混ぜる色水の割合や量などをこども自身が試行錯誤しながら取り組めるようにする。
- ・3原色のセロファンを用意し、室内外で光にかざしてみたり重ねたりできるようにする。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・青と白の絵の具を使って雨を再現する。
- ・色水遊びのなかで混色の仕組みに気づき、自分なりの配分や量で様々な色づくりをする。
- ・自分の作りたい味のジュースの色をイメージし、混色した色水を使った制作遊びをする。
- ・目の部分をセロファンで作ったトンボの眼鏡を使って遊んだり探索したりする。
- ・自由に重ねたセロファンを通して景色をみて色の変化に気づく。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・雨の日に部屋にも雨を降らそうと絵の具と筆を用意すると、青を選んで模造紙に描く。水色を作りたいと声が上がったのでどうしたら水色を作ることができるか問いかけると、「青と白を混ぜる」と意見がでた。パレットに青と白の絵の具を出すと、筆を使ってパレット上で混色を楽しんだ。模造紙の上でも青、白、水色を重ねると色が変わることに気づいた。
- ・色水遊びでは、こども達と相談しながら色水を用意した。好きな色を自由に選べるようにし、色水を入れる容器を透明で色の違いがよくわかるものにしたら「このいろ〇〇ジュースみたい」とジュースに見立てていた。
- ・ひまわり組の色氷を使ったジュース屋さんごっこに参加したことで色氷に興味を持った。ひまわり組と同じように「氷を作りたい」と意見が出たので製氷皿を用意したところ、混色して作った色水を入れていた。クラスでも「ジュース屋さんをやりたい」とお店さんごっこに発展した。オリジナルの色氷ができると、水に色氷をいれて氷が溶けて色が変わっていくことに気づいた。また、水が凍って氷になることや氷を水にいれると水が冷たくなり溶けることなど、水の性質に気づく姿もあった。氷づくりから広がったごっこ遊びを通して興味がより深まった。
- ・セロファンを自由に重ねて色の変化を楽しんでいた。園庭に持って出ると、セロファン越しに色々な物を見ることを楽しんでいた。日向ではセロファンの色が地面に映り、日陰では色が地面に映らないことに気付く。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・こどもが様々な事象に気付けるように素材や容器を準備することや、こども自身が選べる、気付く機会を持てるようにすることの大切さを感じた。
- ・色の遊びを通して、素材は絵の具だけでなく氷やセロファンなど多岐に渡っていることに気付いた。身近な玩具（ピタゴラス）の色に注目し、工夫して色が変わるものを探す姿があった。絵の具以外の素材でも混ぜたり重ねたり水を加えたりして色が変わるものを見つけ、試すおもしろさにつなげたい。
- ・こども達は色水遊びを通して混色の配分により、同じ組み合わせの混色でも出来上がる色が変わることに気づいた。自分なりの配分で混色することを繰り返し楽しんでいるので、色の組み合わせによる混色だけでなく配分による色の変化に目を向けてより深めていきたい。

令和6年度 とうきょう すくわくプログラム活動報告書（4・5歳児）

施設名	小平市立大沼保育園
施設所在地	小平市大沼町2-2-8

1. 活動のテーマ

<テーマ>

- ・光と影
- ・色

<テーマの設定理由>

・色水遊びをしていたところ、色の混ざり合いや透け具合、光に透かした時と影に入れた時の色の見え方の違い等に面白さを見出した。そこで、様々な活動を通して色と光と影について深めていく。

2. 活動スケジュール

- | | |
|------|--|
| 2月まで | <ul style="list-style-type: none">・色水遊び、寒天遊び、星空作りを楽しむ。・光と影に関する絵本を見る。・影ふみ等、影を使った遊びで興味を深める。・様々な色に触れ、色づくりを楽しむ。 |
| 3月 | <ul style="list-style-type: none">・振り返り |

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・光や影に関する絵本等を用意する。
- ・室内でも光と影を感じられるようにモビールを飾る。
- ・感触あそびの中で色を取り入れられるように、絵の具や食紅を用意する。
- ・カラーセロファンやクリスタル積み木等を用意する。
- ・天気の良い日に影ふみに誘う。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・カラーセロファンを使った制作
- ・色水あそび、氷を使ってジュース屋さん、寒天でゼリー屋さん等の感触あそび
- ・星空作り
- ・影ふみのゲームを行う。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・寒天作りの実験をしたところ、こども達のイメージが広がりゼリー屋さんを開きたいという声が上がった。食用色素の赤、青、黄を使って自分たちで色づくりを始めた。グループごとに作りたいゼリーを決めると、どの色を混ぜたらいいか、もっとイメージ通りの色にするにはどうしたらいいか等、こども達同士で相談し探求していく姿があった。更に、水遊びの時の経験から「おひさまに向けて見ると、きらきらきれいだよ」と教え合う姿もあった。

・星空作りの時には、前年の経験を生かし黒い画用紙に穴を開けて、それを窓一面に貼り星空を作り出した。

画用紙に穴を開けながら「離れて穴を開けた所は暗い」「いっぱい近づけて開けてみよう」と窓に画用紙をかざしてみても、様子を見ながらこども達同士で協力して進めていた。

また、光が入るところにカラーセロファンを貼ってみよう、という提案から所々セロファンを貼ってみると、そこから映る影に色がついて見えることに気付いた。「ゼリー屋さんの時と似てる」と以前の経験を思い出して光が透ける色の面白さを楽しむ姿があった。

・「出来上がった星空の中でご飯を食べたい」

「ここでお昼寝がしたい」というこども達の思いがあり、星空だけの薄暗い部屋で昼食をとることになった時は、「ちょっとご飯が見えないか」という声からランタンを用意した。

「影がある」「なんかモヤモヤしてる。なんでだろう」とランタンの影を見て不思議がる様子があった。

・影ふみは影を見ていないと踏まれた実感がないためルールの理解が難しい子もいたが、木等の大きな影の中に入ると自分の影が消えることに気がつく姿があった。

・色水遊びや絵本から混色に興味を持つ姿が見られ、混ざったら緑やオレンジ、紫になると自分で見通しをもち先を考えながらジュースづくりを楽しむ姿が見られた。その姿からジュース屋さんを開くことにした。三原色の氷を用意して、2色の氷と水を混ぜてジュースを作りお客さんとのやりとりを楽しむ姿があった。

透明なカップを用意したことで「きれいだね」「2つの色になってるよ」「色が変わってきた」等、ゆっくりと色が混ざりあう様子を喜んで観察する姿が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

今回の活動を通して、こども達が今までの経験から気付いたこと、知っていることを共有しあったり教え合ったりする姿があった。そこからまた「じゃあこうしてみよう」とこども達同士が試行錯誤しながら協力して進めていく様子もあり、こども達自身が考え協力し展開させていく楽しさを感じているようだった。色の混ざり合いや光と影が作り出す世界の面白さの他にも、自分で考え活動していくこと、友達に自分の気づきを伝えること、それを共有して一緒に進めていく探求の面白さを深めることができた。

色の混ざり合いへの興味も広がり日々のあそびで楽しむ中で来年の運動会の看板は「大きなカメレオンを作りたい」、「カメレオンの影が映ったらおもしろいね」という話が出た。光と影が作り出す世界の面白さをこどもと一緒に感じられるよう更に活動を考え、学びを深めていきたいと思う。